

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-540	24-327	慶應義塾大学名誉教授 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
The Role of Exercise in Steatotic Liver Diseases: An Updated Perspective 脂肪性肝疾患における運動の役割：最新の視点		
執筆者		
Iyiad Alabdul Razzak ¹ , Ahmed Fares ² , Jonathan G Stine ^{3,4} , Hirsh D Trivedi ^{5,6}		
掲載誌		
Liver Int. 2025 Jan;45(1):e16220. doi: 10.1111		
キーワード	PMID	
肝硬変、脂肪肝、生活習慣、メタボリックシンドローム、 身体活動、予防	39720849	
要 旨		
<p>背景：代謝機能障害関連脂肪性肝疾患（MASLD、旧称：非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD））の有病率の増加は、座りがちな生活様式の上昇と並行している。MASLDは脂肪肝疾患（SLD）の最も一般的な形態であり、アルコール関連肝疾患やそれらの重複症を含む慢性肝疾患の大多数が該当する包括的な概念である。これらの疾患は慢性肝疾患の主要な要因であり、世界の罹患率と死亡率に重大な影響を与えている。新たな薬物療法が登場しているにもかかわらず、運動はMASLD治療の基盤を成す。</p> <p>目的：本レビューは、SLD管理における運動の役割に関する最新の知見を提供し、その分子的・臨床的利点を強調するとともに、肝硬変段階における運動の有益性と安全性を検討することを目的とする。</p> <p>方法：前臨床および臨床研究のエビデンスをレビューし、運動がSLD（主にMASLD）、進行した慢性肝疾患段階に及ぼす影響、ならびにレスメティロムやインクレチン系抗肥満薬などの進化する治療法との関連性を評価した。</p> <p>結論：運動はMASLD管理における基幹的介入であり、肝硬変まで進行した患者にも有益性が示唆されている。薬物療法を受けている患者を含む全ての患者において、個別化された運動プログラムを優先すべきである。運動プロトコルの精緻化、組織学的・臨床的転帰への影響、および新興治療との相乗効果の可能性を調査するため、さらなる研究が必要である。</p>		